

（シート1）

82歳の母親（Aさん）と54歳の息子（Bさん）は、持ち家で二人暮らしである。

Aさんは足腰が弱り、一人でトイレに行くこともままならない状態にある。ゴミ捨てや買い物に出かけるAさんの姿を見かけなくなったことを心配した近所の人Aさん宅を訪ねてそのことを知り、民生委員に連絡した。

民生委員が訪問すると、「私のことはほっておいて。とにかく息子のことが一番心配なの。息子のために一日でも長く生きていくしか方法がない」と涙ぐむ。以前は、地域とのつきあいはあったが今ではほとんどない。庭木の手入れもできず、うっそうとしている。

息子のBさんは、以前は板前をしていたが、2年半前にリストラされて実家に戻った。現在、収入はない。最近では再就職に向けた活動もまったくしておらず、Aさんの厚生年金で生活している様子で、朝からお酒を飲んでいることも多い。近所の人と会うことを避け、たまに会ったときに声をかけてもにらみつけるので、みんな怖がっている。Bさんが残飯を与えるので野良猫がたくさん集まり、近隣からは苦情が出ている。

民生委員から自立相談支援機関に連絡が入り、この世帯へのかかわりが始まった。

課題1 この時点で、この世帯にどのように働きかけますか。

（シート2）

自立相談支援機関の相談支援員は、民生委員と一緒にAさん宅を数回訪問した。Aさんは1階で、Bさんは2階で暮らしているようだった。1階は窓を閉め切って薄暗く、かなり物が散乱している様子であるが、Aさんはそれなりに清潔な身なりをしている。Aさんは相談支援員に「部屋が散らかっていてごめんなさい」と話した。

数回の訪問のなかで、Aさんは少しずつ息子のBさんのことを話し始めた。Bさんが実家に戻ったのはリストラされたことだけでなく、高齢で一人暮らしがおぼつかなくなった母親を心配してのこともあること。Bさんは食事や買い物など母親の生活に気遣いをみせてくれているが、仕事探しがうまくいかず、だんだん気持ちがすさんできて、最近ではお酒の量も増えてきたこと。亡くなったAさんの夫がアルコール依存症で、暴力をふるう人であったことから、Bさんはずっと父親に反発してきたが、結局、息子も同じ様になってしまうのではないかとAさんは心配していることなどが明らかになった。

ある日の訪問の際、買い物に出ていたBさんが帰宅してきた。Bさんは、母親のところに会いに来る相談支援員のことを気にしていたようで、Aさんの部屋をのぞき、「母がお世話になっています」と頭を下げた。Bさんは、無精ひげが伸び、顔色もすぐれない。ジャージ姿で、体格がいいこともあり、人に威圧感を与える印象がある。しかし、Aさんに「昼のおかず、テーブルの上に置いておくから」と声をかける表情は穏やかで、親子が互いに相手を思いやっている様子もうかがえる。

相談支援員が、Bさんにお会いできてうれしいことを伝え、またお会いして話が見たいと言うと、最初は「僕の話は結構ですから」と拒否された。しかし再度、お母さんのことも心配だし、いろいろと話をしながらできることを一緒に考えたいと伝えると、「来てもいいけど、僕は役所とかの人は信じられない。前に相談に行ったんだけど、いやな思いをしたからね」と強い口調で話した。

課題2 この時点で、この世帯にどのように働きかけますか。